

今、輝いている人

(特)茅野市スポーツ協会ではスポーツを前向きに頑張っている方の貴重な体験談と熱い感動をお伝えします。

中学校中学校最後の大会に向けて

茅野ジュニアバドミントンクラブ 山口 煌生

僕は、中学校に入学するにあたり、部活動の選択をしなければなりませんでした。

小学校の頃、スポーツを何もやって来なかった僕は、バドミントンの桃田選手や奥原選手などの活躍を見て、カッコいいな、僕もあんな風にバドミントンが出来たら良いなと思い、バドミントンクラブに入部する事にしました。

人前で緊張してしまう性格なので、1年生の最初の大会では、いざ試合が始まると頭の中が真っ白になってしまい、練習の成果どころでは無い苦い経験をしました。

その後の3年間は、クラブの監督やコーチの指導の下、先輩や後輩と共に練習に励んできました。そして、中学最後の大会に向けて頑張ってきましたが、感染症蔓延の為に中止になってしまい残念に思っていました。しかし、各関係者の皆様のご尽力で、8月に代替大会を開催出来ることになりました。

最後の大会では、今までの練習の成果を十分に発揮し、支えてくれた人達への恩返しのお気持ちも込めて、悔いが残らない大会にしたいと思います。



私と少林寺拳法

茅野市少林寺拳法協会理事長 堀田 通智

私と少林寺拳法の出逢いは、「広報ちの」の初心者少林寺拳法教室の募集からでした。格闘技には興味が有ったのですが、なかなか一步を踏み出すことが出来ずにいたところ、初心者という言葉が目に入り職場の仲間と体験することにしました。

あれから約30年が経過し、少林寺拳法と一緒に始めた職場の仲間も私一人となりました。現在は四段を取得し、そして四段以上が対象となる審判員の資格も取得しました。スポーツ少年団等の大会では審判員を依頼され、福井県や山梨県など遠方に出張することもあります。審判を行うには自分自身が少林寺拳法の技に精通していなければならないと、少林寺拳法の修行自体はまだまだ続けていかなければならないと感じています。

- 少林寺拳法は、やればやるほど奥が深く、いつも新しいことに挑戦しなくてはなりません。少林寺拳法を始めた頃の思いを忘れることなく、いつまでも謙虚に愚直に修行に励んで行きたいと思えます。

